今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇12月 18 日～

先週は米国のFOMC後に、米国株は大幅高、為替は大きく円高に動きました。
米国のダウ平均株価は史上最高値を更新する動きになっています。
FOMCは、思っていたよりもハト派（金融緩和に前向き）な転換となり、米国株には大きな影響を与えました。パウエル FRB 議長が利下げ時期の検討を行ったことを認めました。
米国については来年のいつ頃から利下げに動くかというところに焦点が移っています。
そして、今週は日銀金融政策決定会合があるので、日銀が何かするのではないかという警戒心も強まっています。
ただ、年末に大きく方向転換しないといけないこともないので、来年以降の出口戦略について説明する程度で警戒しすぎもよくないとの声もあります。
しかし、気になるのはテクニカルチャートの形です。すでに明確な下落トレンドとなっています。
もし、ドル／円が 140 円を割り込むような動きになるとチャートの形はさらに悪くなるので、気をつけないといけません。
先週は米国も欧州も金利据え置きとなりました。
先週発表された米国の消費者物価指数も予想通りの結果となり、米国のインフレは懸念するような状況ではなくなりつつあります。
それに対して、日本の全国消費者物価指数は今年に入ってからずっと3％を超える状況が続いているため政策転換はしないといけなくなってきているのでしょう。
ほとんどの先進国は、これ以上の利上げには慎重な姿勢となるため、これから正常金利に戻していく日本だけが世界と逆行した動きをすることになります。
そうなると、円高に進みやすくなり、年末・年始にかけて流動性も低くなってくるので、慎重にトレードしていきたいと思います。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

11 月後半から円高の動きになっていますが流れはまだ下向きということで上昇はすぐに終わる動きになることを想定してのトレードを心がけたいです。
週足で見ても陰線が続いている状態なので、安値更新の動きには常に警戒がいります。
まずは、週明けから先週安値の140．95円を割り込まずに上昇が続くかどうかです。
143 円を超えてくると 145 円あたりまでは戻してくる可能性もあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

146 円台を回復できればFOMCでの下げを取り返したことになるので、一安心です。
ただし、ニュース次第ですぐに状況が変わったりするので、利益確定は少し早めでもいいかと思います。
下値は、140 円を割り込むような動きが出た場合、138 円あたりまで下がるリスクがありそうです。
去年も年末・年始でもかなり動いているので、まだ今年の相場は終わってないと考え、最後に大きな動きが出ることも想定して、リスク管理を徹底したいです。

＜気になるクロス円＞

クロス円も先週はドル／円の急落の影響で下げているペアが多いです。
今週はどこまで戻すかですが日銀金融政策決定会合があるので、週の前半は無理にポジションを作らずに様子見でもいいかもしれません。
クロス円は株価の動きにも連動することが多いので、日経平均など株の動きも見ておいた方がよさそうです。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では日銀金融政策決定会合・政策金利発表、植田・日銀総裁定例会見、11月貿易統計、11月全国消費者物価指数などがあります。
米国では12月NAHB住宅市場指数、11月住宅着工件数、11月建設許可数、10月対米証券投資、7－9月期四半期経常収支、11月中古住宅販売件数、12月消費者信頼感指数、7－9月期GDP（確定値）、前週分新規失業保険申請件数、12月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、11月耐久財受注、11月個人消費支出、11月新築住宅販売件数、12月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。
欧州ではユーロ圏で11月消費者物価指数、ドイツで12月IFO企業景況感指数などがあります。
ほかには英国で7－9月期GDP（改定値）、カナダで10月GDPなどがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved